講座番号
7

『更級日記』
－ 平安の文学オタク女子の本音 －

定員・回数 ： 60 人・3 回
時間・場所 ： 午後 2:00～3:30・研修室
費　　用 ： 受講料 600 円
講　　師 ： 斎宮歴史博物館 学芸普及課 学芸員 榎村寛之

『更級日記』をご存じですか？平安中期の日記文学の代表的作品です。この講座の中では二年前に『土佐日記』を歩きましたが、今度は菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ）という作者に深入りして『更級日記』とその背景を読んでいきたいと思います。サブテーマは「この人、とても面白いんです！」

1/16（木）	**『更級日記』と「菅原」氏** 「あずまぢの道のはてよりも、なほ奥つかたに生い出でたる人～」で始まる『更級日記』。静かに流れるような文体は、文才の家系に生まれた所以でしょうか。孝標女の先祖は菅原道真。まず彼女の周辺からお話します。
2/13（木）	**『更級日記』に見える平安時代の女性旅** 『更級日記』は、「早く京に上って、『源氏物語』を読みたい！」と思いを募らせる孝標女が、父の勤めた上総の国（現在の千葉県）から京へ帰る旅の思い出から始まります。これは『土佐日記』に似ている？代表的なエピソードを取り上げ、作者の作品についての意識も考えます。
3/13（木）	**菅原孝標女の宮仕え** 菅原孝標女はなぜ『更級日記』を書いたのか。なぜ書けたのか。どうも宮仕えと関係がありそうです。清少納言、紫式部も女房として出仕し、作品を残しています。中宮らの世話をする女房はどのように選ばれるのか、宮仕えとはどのようなものか、貴族女性の生き方に触れながら、考えていきます。